JIC インフォメーション

第200号　2019 年 3 月 1 日　**臨時号**
年 4 回　1･4･7･10 月の 10 日発行
1 部 500 円

発行所：JIC 国際親善交流センター　発行責任者：伏田昌義　http://www.jic-web.co.jp

東京オフィス：〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F　TEL：03-3355-7294　jictokyo@jic-web.co.jp
大阪・ロシア留学デスク：〒540-0032 大阪市中央区谷町 2-7-4 谷町スリースリーズビル 7 階　TEL：06-6944-2341

はりねずみのジェーニャ

ロシア・旧ソ連　国際交流誌

写真；右上/昨年 11 月 19 日の日本ロシア経済合同会議（写真提供；経団連）、右下/「日本とロシアを結ぶ渡り鳥」オオハクチョウ（為貞貞人氏提供）、左下/ベラルーシの首都ミンスクの旧市街 верхний город（上の町）

http://www.jic-web.co.jp

＜日ロ協会 ロシアを知るセミナー＞
「日ロ経済関係の現状と課題～経団連の取組み」
　　・・・・・・中嶋　康（経団連・国際経済本部 上席主幹）・・・2P
＜募集中＞ キルギスでの日本語教師・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5P
＜日ロクラブ 講演会＞　ロシアと日本を結ぶ渡り鳥
　　・・・・・為貞 貞人（埼玉県生態系保護協会会員）・・・・・・・6P
＜大阪日ロ協会 講演会＞
笑いの王国ロシアを語る～アネクドートに表われた庶民の心
　　・・・・・・・・・・・岩佐　毅（トライデント社代表）・・・・・・11P
＜留学記＞ ちょっと変わったベラルーシ留学
　　・・・・・・・・・・・鎌田　幸伸（ロシア語通訳案内士）・・・・16P
ロシア文化フェスティバル 2019 年のプログラム ・・・・・・・19P

JIC では、Ｊクラブ(JIC 友の会)会員を募集しています。
年 4 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

NPO日本ロシア協会主催「ロシアを知るセミナー」

18 年 11 月 27 日、NPO 日本ロシア協会（高村正彦会長）の「ロシアを知るセミナー」が東京で開催されました。講師は、経団連・国際経済本部の中嶋康氏。「日露経済関係の現状と課題～経団連の取組み」というテーマで、11 月 19 日に東京で開催された日本ロシア経済合同会議の報告を中心に、日露経済関係の拡大と深化に取り組む経団連・日本ロシア経済委員会の活動が紹介されました。以下はその講演録です（編集部）。[写真提供：経団連]

日露経済関係の現状と課題～経団連の取組み

中嶋　康（経団連・国際経済本部 上席主幹）

本日は、経団連の取組みを中心に日露経済関係の現状と課題をどう見ているか、特に経団連の会員企業からいただいた意見やコメントを中心に紹介したいと思います。また、先週 11 月 19 日に日露経済合同会議を開催したばかりですので、そちらについても概括的に振り返りたいと思います。

日露経済関係の現状（貿易・投資）

まず、ここ数年間の日露経済関係を簡単におさらいしておきます。

2015 年 12 月に経団連としてロシアに関する初めての提言「日露経済関係の基本的な考え方」を発表しました。その後、2016 年 5 月にソチで日露首脳会談が開かれ、安倍総理からプーチン大統領に対して歴史的な「8 項目提案」が行われました。この首脳会談の翌月に経団連は 5 年ぶりとなる代表団をモスクワに派遣しました。そして年末にプーチン大統領が来日。山口での首脳会談のあと東京の経団連会館で日露ビジネス対話を開催しました。2017 年の 11 月にはモスクワで、これも5年ぶりとなる第14回日本ロシア経済合同会議を開催しました。

足許の日露経済関係の現状をまず貿易面で見ると、日本からロシアへの輸出は輸送機械、一般機械、電子機器等が中心である一方、ロシアから日本への輸入は鉱物燃料、非鉄金属、魚介類等が主要品目です。1992 年以降の二国間貿易の推移（グラフ）を見ると、2014 年がピークで双方向貿易高が 342 億ドルに達しました。しかし、2014 年以降は政治的・地政学的要因によってガクンと下がっています。2015 年、16 年と下がり続けて、貿易高は半減しました。2017 年は対前年比 2 割増と持ち直してきており、良いトレンドが回復しつつあります。けれども 2017 年の貿易高はまだ 198 億ドルなので、2014 年のボリュームと比べると 6 割程度の水準でしかありません。為替の変動や低迷する原油価格等の問題があるので一概には言えませんが、やはり日露の経済関係はそのポテンシャルを十分活かしきれていない、ということがこの双方向貿易の現状から見て取れるかと思います。

次に投資ですが、これはいろいろな統計があって、日本からロシアに直接・間接にどれくらいの投資が行われているか正確にはわからないのが現状です。ROTOBO（ロシア NIS 貿易会）の資料によれば、対露投資残高は累計 100 億ドル超ということで、アジアではトップクラスの額です。うち 91%が極東地域に集中しているので、やはり極東が日露ビジネスのゲートウェイであると言えると思います。経団連としても、極東を日露経済交流の一つの柱として捉えている所以です。

日露経済関係の課題

日露経済関係の課題ですが、先程紹介した経団連の提言（2015 年 12 月）では、ロシア政府が改善に取り組むべき諸課題として、行政の問題、法制度の問題、輸出入手続き、税制・会計制度などを 7 項目にわたって取り上げています。経団連の会員企業がどういったところにロシア・ビジネスのやりにくさ、障壁や課題を感じているかというと、やはりなんと言っても行政手続きが非常に煩雑で許認可取得に時間がかかる、窓口によって説明が異なったり要求される書類が異なったりする、といったことがアンケートで毎回指摘されています。法制度も曖昧で理解しにくい法解釈と運用がなされ、英語でアップデートされないものも多く、パブリックコメントに付されることなく、法律が突然変更されるといった指摘が、同様に毎回寄せられているところです。貿易手続きに関連する問題では、輸出入・港湾諸手続き等においてまだまだ賄賂に近いことも含め担当職員による恣意的な判断や対応が散見されるということが言われています。この辺はロシア・ビジネスに携わっている方にとっては何ら新しいことではないと思いますが、経団連でもこうした問題を適宜整理してロシア側に改善を要望しているということを紹介しておきたいと思います。

アンケート調査からみたロシアのビジネス環境

資料「ロシアのビジネス環境等に関するアンケート（2018 年度）結果」をご覧ください。これはウラジオストクで東方経済フォーラムが開催された初日（9 月 11 日）に経団連が公

表した資料ですが、春に経団連会員企業と在モスクワ・ジャパンクラブ会員企業等を対象に調査を行い、113 社から回答を得た結果をとりまとめたものです。

まず総論として、１．ロシア・ビジネスの有無。単純にロシア・ビジネスをやっているか、やっていないかを聞くと、合計 82 社、全体の 73%近くがやっている。これは昨年度から約 7 ポイントの増加です。

２．ロシア・ビジネスに対する見方では、「ロシア・ビジネスを行う予定が現時点ではない」企業がどう見ているか。「大きく変化しない」と回答した企業がほぼ横ばい（約 57%）で一番多かったのですが、2010 年以後の経年変化のグラフを見ると、「悲観的に見ている」企業が 2014 年 13.7%、2015 年 14.1%とこの頃はロシアに対してペシミスティックな見方が多かったのが、16 年は 9.8%、17 年 5.8%、そして今年 2018 年はゼロとなり、「悲観的」と回答した企業は 1 社もありませんでした。これは特筆すべきことで、ロシア・ビジネスに対する見方がここに来てとみに改善しているということが言えると思います。

３．ロシア・ビジネスの今後の展開を聞いたところ、「拡大強化を検討している」という回答が 45 社（41.7%）で、これも昨年より 5 ポイント増えて少し広がっています。ですから、ロシア・ビジネスに対する見方が押しなべて改善してきており、各企業とも少しずつ拡大していこうという気運が盛り上がっているということが言えると思います。

環境は改善しているが課題も依然多い

各論に入ると、毎年のアンケートで定点観測をしている項目ですが、ロシア・ビジネスにおいてどういった分野、地域が有望と思われるかという設問があります。ロシアと言えば毎年不動の第 1 位は、圧倒的に資源・エネルギーですね。第 2 位がインフラ、3 位が自動車・自動車部品、4 位医療関連で、これも毎年大きな変化はありません。ただ今年は、これまでと異なり、化学・石油化学が 5 位に入ったことが特記事項です。ここ 3 年間の推移を見ると、化学・石油化学は 16 年 6.5%、17 年 11.2%が 18 年は 14.7%ということで、それまで上位にあった運輸・物流や食品を抜いて 5 位に浮上しています。

では有望と思われる地域はどこかというと、例年、モスクワやペテルブルクなどのヨーロッパ・ロシア地域が圧倒的に大きいのですが、ここ数年の傾向としてどの地域も減少傾向にあったのが 2018 年はどこも増加傾向に転じました。とくに極東地域は前年度比で 10 ポイント以上増加し（43.4%→54.0%）、極東に対する期待が盛り返している実態を反映した結果となりました。分野にしても地域にしても、ロシアに対するビジネスというものを肯定的に見ている企業が増えていることが見て取れます。

ロシア・ビジネスの問題点については、さきほど少し解説したとおりですが、前年同様、①行政の問題、②法制度の問題、③輸出入手続きの問題、の 3 項目が上位を占めたものの、そのいずれの項目でも問題点の指摘件数が前年よりは減少しています。許認可手続きや税関手続きの簡素化・透明化などまだまだ課題は多いのですが、その一方で、空港や道路などのインフラ整備の進展や治安の改善、これはやはりワールドカップの開催効果が大きかったと思いますが、こういった点を評価する声も見られました。かてて加えて、ナビウリナ中央銀行総裁の手腕によって政策金利・為替が安定化し、インフレも非常に安定的に推移しているということで、問題点の改善を評価する企業もそれなりにあるということをお含みいただければと思います。

経団連・日露経済委員会の主な活動（2018 年）

経団連としての取り組み、2018 年の日本ロシア経済委員会の主な活動を説明したいと思います。ご案内のとおり 2018 年は「ロシアにおける日本年」、「日本におけるロシア年」ということで、各地でビジネスセミナーや文化フェスティバル、音楽・スポーツ交流などが行われました。この一環として、経団連では第 15 回日ロ経済合同会議を 11 月 19 日に東京で開催したわけですが、この詳細は後ほどご説明します。

サンクトペテルブルク国際経済フォーラム

それに先立って、まずはサンクトペテルブルク国際経済フォーラム（5 月 24 日）に参加しました。フォーラム全体会議には日本から安倍総理も参加されました。ROTOBO に経団連も全面的に協力する形で「日露ビジネス対話」が開催され、安倍総理とプーチン大統領にご参加いただきました。この会合では、経団連・日本ロシア経済委員会の朝田照男委員長（丸紅会長）が、プーチン大統領にいくつかの要望を直接行いました。2 分間しか時間が与えられなかったため非常に簡潔にではありましたが、やはり我々の最大の問題意識は極東のインフラ整備であるということ、それから経済特区内やウラジオストク自由港で講じられている優遇措置があまり魅力的ではないということ。日本の製造業は長期的なスパンで経営戦略を立てますので、例えば現在は 5 年となっている法人税の減免や社会保険料の免除のスパンをもっと長くする必要があるのではないかと、大統領に申し上げました。大統領からは、減免期間を延長するという確かな言質は取れなかったのですが、確かに日本企業に限らず投資額が大きい場合、回収に長期間を要することは理解できるので、減免期間延長を検討する余地はあると、少し含みをもたせたリアクションがありました。

ウラジオストク東方経済フォーラム

次は 9 月にウラジオストクで開催された東方経済フォーラム。各国首脳が一堂に会した全体会議でプーチン大統領から突然「前提条件を付けずに年内に平和条約を締結しようじゃないか」という発言が飛び出し、安倍さんが苦笑いをしたことは皆さん記憶に新しいところですが、同時に極東連邦大学で「日露ビジネスラウンドテーブル」が開催されました。これは経団連をはじめ日露の政官民合わせて総勢 350 名以上が参加する大きな会議でした。

朝田委員長はここでも経団連を代表してスピーチを行いました。まさにアンケートの最新結果を踏まえて、「ロシアにおける投資優遇策の課題・問題点」はどこにあるのかという問題提起を行いました。

アンケートでは、圧倒的に多くの企業の方が、「優遇策の内容がよくわからない」「正確で客観的な情報が不足している」と回答しているわけです。これは日本企業の慎重な投資

判断なのかもしれませんが、「投資に対する十分なリターンが見込めない」という回答も多い。鶏が先か卵が先かですが、そういうことで、「進出して成功したサクセスストーリーを知らない」ので、後に続こうという企業の流れも出てこない。加えて「法的安定性や予見可能性に不安がある」といった回答が続きます。

それと、これはもうロシア極東としてはどうしようもない話ですが、やはり市場としての小ささですね。ウラジオストクで 60 万人強、極東連邦管区全体で人口 610 万人程度ということで、非常に市場のボリュームが小さいものですから、ここは第三国市場、アジア太平洋地域を一体的に考えてビジネス展開するという展望が見えない限り、なかなか厳しいのかなと思います。

ロシア政府への要望

その中で、朝田委員長はロシア政府に対し、3 点具体的な要望を行いました。その第一は、何と言ってもインフラの整備。内陸輸送の貨物不足・貨物停滞に伴う船積みの遅延によってロシア全土の貨物を極東に集中するのが困難なほか、港の保管設備や貨物のハンドリング能力が不足していることは大きな問題です。港湾、道路がガタガタで、例えば野菜工場でキュウリやトマトを栽培してもそれを運ぶ途中で非常に摩耗してしまって商品にならないといった問題が象徴的な事例です。

第二は、先程申し上げたように、特区内の優遇措置（法人税や固定資産税等）の減免期間の延長です。

第三は、投資後のアフターケア。これはロシアに限らないのかも知れませんが、来る時は「来てください」「来てください」と熱心に投資誘致をしておきながら、進出するともう釣った魚みたいな感じで、後はあまりケアをしてもらえないという寂しさを感じている企業さんも多いのです。投資後も進出企業に対するきめ細かなケアがあってこそ、極東への投資が拡大していくものと期待されます。

朝田委員長からの具体的な指摘、要望に対して、経済発展省のオレシュキン大臣からその場で「指摘を受けた問題と課題の解決に向けて、時間はかかるけれども一歩一歩前進をしたい」、「情報提供が不足しているのは、新規投資を検討している企業にとって大きな問題なので、何らかのメカニズムを作りたい」という非常に前向きな回答をいただきました。もちろん実際の結果が伴わなければ何の効果もありませんが、こういった場で現職閣僚からきちんとした回答をいただけたことは、経団連としても一定の成果と考えています。

第 15 回日本ロシア経済合同会議

さて、先週終わったばかりの日本ロシア経済合同会議についてご報告します。

11 月 19 日、ロシア側から経団連のカウンターパートであるロシア産業家企業家連盟（ＰＣＰＰ）のショーヒン会長率いる代表団約 70 名、日本側は日本ロシア経済委員会・朝田委員長以下約 130 名が参加し、世耕経産大臣やガルージン大使にもご来席を賜り、盛況のうちに合同会議を終えることができました。前回日本で開催したのは 2012 年 11 月が最後で、実に 6 年ぶりに日本で開催した合同会議でした。

（写真提供：経団連）

合同会議の主な議論を簡単に申し上げると、第一セッション「持続可能で均衡の取れた日露経済関係をいかに構築するか」では、投資誘致インセンティブやロシアのビジネス環境の改善努力を踏まえて、日露の Win-Win 的なビジネスをどのように多様化し拡大していくか、大所高所の議論がなされました。第二セッション「日露協力とロシア経済の近代化」では、特に新しい基軸としてイノベーションやデジタル経済の分野での協力の可能性について、具体的な事例を含めて検討を行いました。第三セッション「ロシア諸地域:協力が有望な分野」では、ロシアの諸地域、例えばヴォルゴグラード州、ニジニ・ノヴゴロド州、チュヴァシ共和国、ウリヤノフスク州といった地域のポテンシャルをいかに活用していくか、今後の協力が有望な分野について活発な議論を行いました。中でも、ウリヤノフスク州はモロゾフ知事が来日され、積極的なアピールをされました。特に感銘を受けたのは、どの州でも日本語で非常に綺麗な誘致ビデオが準備されていたことです。我々は極東やモスクワ、ペテルブルクといったなじみの都市ばかりを注目しがちですが、ウラル地域やボルガ川沿い地域についても目を向けていきたいなと思った次第です。

建設的な双方向の対話

合同会議の主な成果と今後の取り組みですが、世界銀行が毎年実施している Doing Business ランキング（18 年は 10 月末に発表）では、ロシアは急速に順位を上げて、WTO に加盟した 2012 年は 120 位だったのが直近では 31 位にランクアップし、着実にビジネス環境を改善させています。ここには書いていませんが、日本は 39 位です。つまり、抜かれました、ロシアに。ですから日本もあんまりロシアに対して偉そうなことを言える立場にないわけですが、ただそれでも改善を求めざるを得ないのは、アンケートで日本企業の方々が毎回指摘されている行政手続きや法制度、輸出入手続き等の課題です。ロシア政府や大使館の方々に耳が痛くなっても言い続けるのは我々の仕事であると思っています。

ただ、今回の合同会議では非常に前向きな議論を突っ込んで深掘りすることが出来ましたし、先程申し上げたようなロシア経済のイノベーションという新しい協力領域の糸口を見出せたのではないかと思います。

さらに、合同会議に先立ってショーヒン会長が中西経団連会長を表敬されました。来年日本で開催される G20（金融世

界経済に関する首脳会合）に先立ち、3 月に経団連で B20（Buisness20）東京サミットを開催するわけですが、その際にもデジタル経済協力を含め、経団連とロシア産業家企業家連盟（ＰＣＰＰ）の間で具体的な協力を行っていきたいという熱心な提案があり、双方が一致しました。

こういった建設的で双方向の議論が積み上げられましたので、次回の合同会議はなるべく間を置かずに、来年のしかるべき時期に今度はモスクワで開催すべく調整するということになっております。

日露経済関係の今後の展望

いろいろと申し上げましたが、「８項目の協力プラン」がある中、経団連として日露ビジネスの拡大と深化のために何をしていくかというと、まずはやはり愚直にロシアのビジネス環境のさらなる改善を関係方面に働きかける。課題を一つ一つ克服していくために提言を続けていきたいと考えております。

同時に、経団連としては日露協力の新たな可能性として、Society 5.0 というものを打ち出しています。Industry 4.0 というのはドイツが描く第四次産業革命ですが、Society 5.0 は経団連はじめ日本の官民が一体となって描く未来社会のコンセプトです。一言で言えばデータによって全てが繋がり、経済発展と社会的課題の解決を両立する、国連が定める「持続可能な開発目標」（SDGs）を 2030 年に向けて達成していこうという試みです。これまでは、ややもすると日露二国間だけの関係で、ときには互いにフラストレーションを溜めながらやってきたわけですが、少し視点を変えて、世界で起きていること、国連が国際社会の目標に掲げていることを含め、広い視野を持って日露のパートナーシップを考えていこうというのが、経団連の日露ビジネス協力の方向性です。

その意味で、これまで資源エネルギーやインフラに偏りがちだったものを、少し視点を拡大して、生活の質の向上や社会課題の解決、持続的な経済成長の実現といったものを組み合わせる形で、地球規模の諸課題に日露が協力してともに取り組んでいく、その糸口ができたのが今回の合同会議の成果ではないかと思います。

経団連・日本ロシア経済委員会の概要

最後に経団連と日本ロシア経済委員会の活動を少し PR して話を締めくくりたいと思います。

経団連は、わが国の代表的な企業 1,376 社、製造業、サービス業などの主要な業種別全国団体 109 団体、地方別経済団体 47 団体等から構成される総合経済団体です。その使命は、企業と企業を支える個人や地域の活力を引き出し、わが国の自律的な発展と国民生活の向上に寄与することですが、そのために経済界が直面する内外の重要課題について、経済界の意見を取りまとめ、着実かつ迅速な実現を働きかけております。同時に、政治、行政、労組、市民を含む幅広い関係者との対話を推進し、企業への信頼確立に努めるとともに、各国の政府・経済団体や国際機関との対話を通じて、国際問題の解決と諸外国との経済関係の緊密化に取り組んでいます。

我々が普段やっていることは、基本的には調査分析をして、政策提言を作成する。それを国際経済本部に所属する私であれば、ロシア政府、ロシア大使館や経済発展省などに働きかける、といった活動を日々行っているわけです。

日本ロシア経済委員会は非常に歴史のある委員会です。ソ連時代に日本経済界の対ソ交流窓口として機能してきた日ソ経済委員会（1965 年設立）から実に半世紀以上の歴史があります。

今回は、日露合同会議のカウンターパートであるロシア産業家企業家連盟（ＰＣＰＰ）を中心に紹介しましたけれども、露日ビジネスカウンシルというロシアの経済団体を包摂する枠組みもあります。露日ビジネスカウンシルは、ＰＣＰＰのほか、実業ロシア、ロシア商工会議所、全ロシア中小企業連盟など、ロシアのほぼすべての主要経済団体を束ねる形で日露ビジネスを推進するプラットフォームです。一方、日本側では経団連日本ロシア経済委員会の他、ロシア NIS 貿易会（ROTOBO）、日本商工会議所、日本貿易振興機構（JETRO）などがこれらロシア側経済団体のカウンターパートとして活動しています。他の経済団体とも緊密に連携を取りながら、オールジャパンでどのようにロシアとのビジネスを進めていくかということに取り組んでおります。

（当日の講演テープとレジュメ資料をもとに文章化しました）

日本語教師募集！

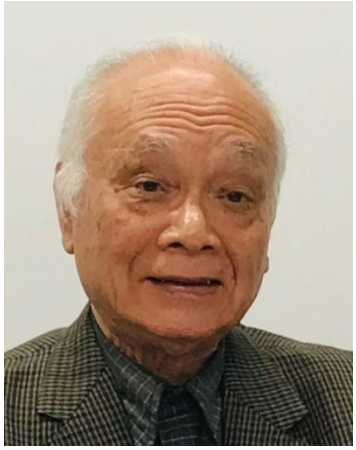
キルギスの 11 年生学校「ビリムカナ・カント校」

キルギスで日本語教師をやってみませんか。
ビシケク郊外にある 11 年制学校で、日本語教師を募集しています。やる気のある人であれば、年齢、性別、学歴を問いません。給料は少なく、往復旅費も自己負担と、ほぼボランティアの条件ですが、教師経験を積み、ロシア語もしくはキルギス語を学習するよい機会になります。

＜条件＞
受入校;ビリムカナ・カント校（私立の 11 年制学校）
所在地;ビシケク郊外（バスで約 30 分）のカント市
授業数;1 授業 40 分×1 日 5 授業×週 5 日
給　料;月額 150 ドル～200 ドル
宿　舎;ホームステイ 2 食付、または学校の寮（1 人部屋/朝夕食は無料提供）
＊アパートの場合は月 100 ドルの家賃補助。
特　典;希望によりロシア語またはキルギス語の授業が無料で提供されます（40 分授業×週 3～4 回）。
募集人数;1～2 名
期　間;19 年 9 月～20 年 6 月
＊期間は希望により延長・短縮可。1 年より短い期間（例えば 4～5 か月）の赴任も可能です。
必要書類;履歴書、卒業証明書、日本語教師資格または教師経験のある方はその資料

問合せ先;ＪＩＣ東京事務所　TEL;03-3355-7294
e-mail; jictokyo@jic-web.co.jp

1 月 12 日、都内で日ロクラブ（江田五月会長）の定期講演会が行われました。テーマは「日本とロシアを結ぶ渡り鳥」。埼玉県生態系保護協会会員の為貞貞人さんが、ロシアと日本、中国・東南アジアなどを行き来する渡り鳥について、その保護のためには渡り鳥が途中で休憩する中継地や越冬地の環境保全がとても大事であること、渡り鳥の保護と干潟や湿地の保全についても日ロの協力が欠かせないことなどを、興味深く話されました。以下は、その講演録です（編集部）。



日ロクラブ講演会　19年1月12日

「日本とロシアを結ぶ渡り鳥」

為貞　貞人（公益財団法人埼玉県生態系保護協会　会員）

はじめに

秋から冬にかけて新聞に『ハクチョウが飛来』、『ガン渡来』といった記事が載るようになります。冬鳥の飛来の始まりです。毎年 1 月半ば全国一斉に「ガンカモ調査」というハクチョウ・ガン・カモ類のカウントが各都道府県で行われます。私も埼玉県で 30 年近く参加しており、今年は実は今日（1 月 12 日）から 3 日間が実施日です。明日は私も割り当て区域の調査に出かける予定です。場所は私の年齢（86 歳）に似合って JR 南浦和駅近くから浦和競馬場の間の小さな川です。かつてはオナガガモやヒドリガモなど多くのカモが飛来していましたが、最近 10 年間にコガモと留鳥のカルガモしか見られず、その個体数も大きく減少しました。住宅地でもあり、環境変化などが大きな原因ですが、市内の田園や河川での観察でもカモ類のほかに、ツグミ、ジョウビタキ、アトリなどの冬鳥やシギ、チドリなどの旅鳥が年々減少していることが実感されます。

鳥の研究者でなくても、私たちが生態系の重要な仲間である野鳥、しかも長い距離を多くの困難を乗り越えて飛来する渡り鳥が発するサインに注意し、そこにどういう問題があるのか考えることは大切なことだと思います。日本に飛来する冬の渡り鳥のほとんどが、ロシア生まれであり、渡り鳥にとって日本とロシアは共通の生活世界であることから、この鳥を通して日本とロシアとのつながりを考えてみたいと思います。

「鳥の渡り」とは何か

鳥の渡りというのは、一般的には、繁殖地と非繁殖地＝越冬地の間を往復する季節的な移動を言います。季節によって生活場所を変える鳥が渡り鳥ですね。人間の世界でも、「渡り」とか「渡世人」という言葉がありますが、これは行きっぱなしが多い。行ったら帰らない。鳥の世界では行ったら必ず帰ってきます。渡り鳥は生まれ故郷を忘れません。これは鳥がいのちを繋ぐために欠かせないことです。

ロシアでは 10 月を「鳥を送り出す月」と言うそうですが、送り出すということは、無事に帰って来ることを願ってのことです。だから、日本に飛来した渡り鳥を大切に守って、無事に帰さなくてはなりません。

昔から鳥が季節によっていなくなったり、また現れたりすることを、人々は不思議に思っていました。古代ギリシャの哲学者アリストテレスは「ある鳥は冬ごもりすることによって寒さを逃れ、また別の種の鳥は他の種に変化するために冬の到来とともに姿を消す」と言っています。ヨーロッパでは 18 世紀になっても、ツバメは地中海に降りて、魚になって水中で越冬すると信じられていました。

日本では季節の渡り鳥が海を渡ってくるとの観念が古くからあったように思われます。青森県津軽の外ヶ浜付近では、秋ガンが日本海を渡るとき海上で休むためくわえてきた木片を浜辺に落とすとされ、春ガンが帰って浜辺に残された木片を集めて風呂をたて、生きて帰れなかったガンを供養したという雁風呂の故事がありますが、これを見ても日本では早くから鳥の渡りについての認識があったことがわかります。

「鳥の渡り」という現象は、18 世紀後半からフランスのビュフォン、イギリスのダーウィン、ウォーレスアメリカのオージュボンなどの博物学者やナチュラリストにより近代鳥類学の基礎が築かれ、渡り鳥に足輪をつけて放す方法が考え出され、渡りの解明が大きく前進しました。しかしながら、足輪や首輪による調査も、渡りの正確なコースまでは分かりませんでした。日本に来る冬鳥の繁殖地が判明し、飛行ルートが推測できても、どのようなコースで、どこで休息して飛来するかということまでは近年まで正確には分かりませんでした。

日本の鳥たち～半分以上は渡り鳥

日本の鳥類相の特徴を簡単にお話しします。

世界で鳥の種類は約 9000 種と言われ、亜種を含めると 2 万 5000 種ぐらいになります。「日本鳥類目録」（第 7 版）では日本にいる鳥は 633 種。このうちの 51%が水鳥で、49%が陸鳥です。ほぼ半々ですが、水鳥の方が少し多い。世界の鳥の 90%は陸鳥なので、日本は水鳥の比率が非常に高いことが分かります。水鳥が多いということは、また渡り鳥の比率が高いということで

す。

日本の留鳥と渡り鳥の種類数の比率を見ると、本州、四国、九州地方では留鳥 40%、渡り鳥 60%、北海道と琉球列島は留鳥 20%、渡り鳥 80%です。北海道と琉球列島は本州と鳥類相が異なり、北海道はシベリア系を含み、北からの渡り鳥の日本最初の中継地や繁殖地であり、また日本最後の北への出発地です。琉球列島は九州南端から台湾まで飛び石状に並び、北半球と南半球を行き来する渡り鳥の重要な中継地や繁殖地です。このように、日本で通常見られる約 300 種のうち 6 割以上が渡り鳥です。冬の渡り鳥の多くがロシア産です。

日本列島はユーラシア大陸に沿って長く広がり、南方系の鳥と北方系の鳥が混在し、多くの冬鳥と夏鳥のほか、旅鳥という北極圏から日本を経由して南方の東南アジアやオーストラリア、あるいは南極との間を往復するシギ・チドリなどの鳥がいます。そのため日本列島は東アジア・オーストラリア地域において非常に重要な位置を占めています。

留鳥と渡り鳥～夏鳥、冬鳥、旅鳥

留鳥というのは、一年中同じ地域に生息している鳥です。日本で通常見られる留鳥は約 100 種です。キジ、スズメ、カラス、ムクドリといった鳥たちです。留鳥でも地域によっては夏は高山にいて冬は里に下りて来る鳥がおり、これは漂鳥と言います。

渡り鳥は季節によって移動を繰り返す鳥で、夏鳥、冬鳥、旅鳥の大きく三つに分かれています。

夏鳥は、繁殖のため南から日本に春に飛来して夏を過ごし、秋にフィリピンやマレーシアなど東南アジアに帰って越冬します。ツバメ、オオヨシキリ、カッコウなど 21 科 70 種以上がいます。

冬鳥の代表オオハクチョウ(提供;為貞氏)

冬鳥は、越冬のために秋に来て、冬を過ごし、春に北の繁殖地に帰って行きます。15 科 75 種以上で、ナベヅル、オオハクチョウ、コハクチョウ、カモやガンの仲間、ユリカモメなどカモメの仲間です。

旅鳥はシギ、チドリの仲間に多く、シベリア地方で繁殖して、冬には東南アジアやオーストラリアで越冬し、春と秋に 2 回日本に立ち寄って通り過ぎる鳥たちで、7 科 30 種以上います。

ロシア極東の鳥たち～群生し仲間意識が強い

ロシア極東は、北は北極海、東はベーリング海、オホーツク海、そして南は日本海と太平洋に囲まれて非常に広く、その鳥類相は北極地方のツンドラや荒野の厳しい環境や寒帯のモンスーン気候の影響のもとで、群生を含め特有の生態系を形づくっています。そこでの鳥類相の第一の特徴は、種類数が多く，繁殖する鳥の数が非常に多いことです。個体数が大量で、ユニークな群れやコロニーを形成します。そして、季節の渡りの時期には、極東の多くの湖沼、湾、干潟で著しい鳥の集中や大小の群れが形成され、越冬地への大移動、季節の渡りが奔流のように起こります。

ロシア極東では、プリモルスキー地方 478 種、ハバロフスク地方 380 種、アムール州 326 種、サハリン州 410 種、カムチャツカ地方 292 種、マガダン州とチュコト自治管区 230 種が報告されており、各地域に満遍なく鳥が生息、繁殖しています。ロシア極東全体では 75 科 557 種の鳥類が記録され、そのうち 424 種がロシアで繁殖します。(鳥類目録『ロシア極東の鳥』ロシア科学アカデミー極東支部生物・土壌科学研究所　2009 年)

ハクチョウやガンなどの渡り鳥が形成する群れには、注目すべき群れの「論理」があります。家族を中心にした 3 羽から 200 羽の群れ(スターヤ)を形成し、スターヤが合同して大群(スコプレーニエ)を編成して季節の渡りに臨みます。このスコプレーニエが大合同した数万、数十万羽の集中が一定の湾や湖沼で見られます。渡り鳥にとって群れの形成とその構成は、渡りのコースの決定、中継地の選択そして安全の確保のために重要なことです。そうした群れには、一羽も置き去りにしないという強い息遣いが感じられます。

「雁首をそろえる」という言葉がありますね。人間社会では揶揄的に使われることがありますが、群れで行動するガンにとって全員が一斉に長い首を立て一点を注視して次の行動に備えることは、群れの存亡にかかわることなのです。ハクチョウやガンなどのつがいや親子のきずなの強さはいろいろ観察され、物語にもなっていますが、日本に飛来する渡り鳥への私たちの対応は、私たち社会のあり様が問われる問題です。

日露渡り鳥等保護条約

国際的な渡り鳥保護のために二国間の渡り鳥保護条約があります。日本とロシアの間では、1973 年 10 月にモスクワで日ソ渡り鳥等保護条約(正式名称:渡り鳥及び絶滅のおそれのある鳥類並びにその生息環境の保護に関する日本政府とソヴィエト社会主義共和国連邦政府との間の条約)が締結され(1988 年 12 月発効)、現在のロシアにも引き継がれています。条約の付表には保護対象として 287 種類の鳥が列挙されています。

日ソ(日露)渡り鳥等保護条約の内容は、 渡り鳥および絶滅の恐れのある鳥類に関してそれぞれ、(1) 両国間を移動する渡り鳥の捕獲、その卵の採取を規制するとともに、これらの鳥類および加工品の販売・交換等の流通を規制すること。(2) その加工物の輸出・輸入を規制すること、(3) 生息する環境の保全、改善の措置、保護区の設置につとめること、そして(4)共同研究と資料交換を行うことが定められています。この条約に基づいて、日露の

政府関係者や研究者、また多くの民間団体が共同して渡り鳥の保護活動を行ってきているわけです。

渡り鳥等保護条約は、アメリカとも 1972 年に日米渡り鳥等保護条約が結ばれています。この保護対象の鳥は 190 種です。オーストラリアとは日豪渡り鳥等保護条約(1974 年)で 76 種。中国とは条約ではなく日中渡り鳥等保護協定が結ばれており、これは 227 種が対象です。韓国とは日韓環境協力協定(1993 年発効)があり、この下で日韓渡り鳥保護協力会合がもたれ、互いに連絡を取り合っています。このような二国間条約は、さらに東南アジアの諸国とも、夏鳥や旅鳥の保護のため結ばれることが望まれています。

二国間あるいは多国間の共同調査や絶滅危惧種の保護協力は大事で、日露間では多くの長い協力の歴史があります。その一例がシジュウカラガンの復活事業です。昨年 8 月「日本鴈を保護する会」などが、絶滅危惧種のシジュウカラガンの放鳥事業に取り組んでいた千島列島中部のエカルマ島の南東に位置するシャコシタン島での群れの写真を発表し、繁殖の成功が確認されました。渡り鳥のシジュウカラガンは繁殖地の千島列島に、20 世紀初め毛皮目的で持ち込まれたアカキツネやホッキョクギツネにより激減、絶滅したと考えられ、「日本鴈を保護する会」などがロシア科学アカデミーの研究所の協力で人工繁殖したシジュウカラガンを 1995 年から 2010 年にわたってエカルマ島に放してきました。

2017 年 11 月モスクワで開催された第 11 回日ロ渡り鳥等保護条約会議では、日本から 2016－17 年のシーズンにシジュウカラガンの越冬数が 3000 羽を超えるまでに回復したとの報告があり、そして日ロ共同での千島列島におけるシジュウカラガンの繁殖調査の提案があり、了承されました。ジジュウカラガンの繁殖に関する情報がほとんどない状況の中で、日ロ間で調査の協力が確認されたことは大変有意義なことでした。こうして先のように千島列島でシジュウカラガンの繁殖が確認されたことは、日ロ渡り鳥等保護条約の下での両国の研究機関や民間保護団体などによる日ロ共同の渡り鳥保護の大きな成果です。

ラムサール条約（湿地の保存に関する国際条約）

渡り鳥の保護の国際的な制度として重要なのはラムサール条約です。正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」。これは 1971 年に採択され 1975 年に発効した国際条約です。湾岸や河川周辺の野生の鳥類が生息する自然環境が、開墾や開発、埋め立てや護岸によって急速に湿地が失われて、渡り鳥を含む水鳥の繁殖、越冬、採餌・休息のため必要な湿原や干潟が非常に狭められています。こうした中でラムサール条約が締結され、日本は 1980 年に加盟、最初にタンチョウの生息地の釧路湿原が登録され、1985 年に宮城県の伊豆沼、1989 年に北海道のクッチャロ湖、91 年にウトナイ湖、関東では 93 年に千葉県の谷津干潟が登録されました。これらの登録地はロシア極東からの渡り鳥の重要な中継地であり、大きな意義を持っています。

ラムサール条約に基づいて、日本では現在 50 カ所の湿地が登録されています。ロシアは 35 カ所ですが、面積では日本の 14 万 8000 ヘクタールに対して、ロシアは 1032 万ヘクタールが登録されています。極東ロシアでは、プリモルスキー地方のハンカ湖が登録されており、多くのガン・カモ類が生息し、繁殖期と季節の渡りの時期には重要な役割を果たしています。同じ極東ではサハリン島の北東沿岸に連なるチャイヴォ湾、ピルトゥン湾、その他の湾が国際的な湿地保護のネットワークに加わる要望がありますが、北サハリンでは、この地域で大規模な石油・天然ガスの生産プロジェクトが日本企業も参加して稼働を始めており、今後鳥類などのへの影響が注目されています。

渡り鳥の生息地～どこで生まれ、どう飛び、どこで越冬するのか　（ハクチョウの例）

コハクチョウの繁殖地は、ロシア極東では東シベリア海の沿岸、チュコト半島の根元あたりのチャウン湾およびコリュチン入り江からチュコト海沿岸のツンドラ地帯とウランゲル島です。冬は日本列島、朝鮮半島、中国東部へ渡って越冬します。

オオハクチョウの繁殖地は、ロシア極東ではアナドゥイリ川流域から南へアムール川やハンカ湖の低地およびサハリン島、コリヤーク高地、カムチャツカ半島、シャンタル諸島です。オオハクチョウはコハクチョウより南のタイガ地帯で生息、繁殖し、チュコト半島には生息しません。北サハリンではシュミット半島の湖などで繁殖が記録されています。

オオハクチョウの越冬地は極東では凍らない水域の沿岸や南

千島列島とカムチャツカ半島の温泉湖にありますが、多くは日本列島、朝鮮半島、中国で越冬します。日本の越冬地は 400 カ所以上で、北海道や東日本に多くあります。

コハクチョウはチャウン湾で標識された個体の大部分が日本で観察されており、繁殖地と越冬地の結びつきが徐々に解明されていきました。しかしながらそれらのコースについては長く推測の域を出ませんでした。

ハクチョウの渡りのコース～足環、首環による識別から人工衛星による追跡へ

渡り鳥を保護するためには、繁殖地や越冬地のほかに渡りのコースと中継地を知ることが必要です。そのための伝統的な標識法が足環です。日本では 1924 年に農林省で実施され始め、戦後は 1960 年頃から再開。山階鳥類研究所が中心になって行い、現在は全国の 40 カ所の渡り鳥観測ステーションでほぼ毎年 6 万羽の鳥に標識を付けて放されています。首の長いハクチョウには首環標識が採用され、日本は 1974 年から国際ハクチョウ類首環調査計画に参加しています。放鳥国別に首環の色が決められ、日本は緑色、ロシアは赤色です。1970 年代にロシア極東のチュコト半島で放鳥されたコハクチョウが北海道のクッチャロ湖や秋田県の八郎潟などで確認されました。

1990 年頃から人工衛星を使った渡り鳥の追跡調査が行われるようになり、渡り鳥の位置情報を研究者がリアルタイムで入手でき、渡りのコースや時間、中継地などの解明が急速に進みました。

2010 年前後にオオハクチョウとコハクチョウの追跡調査が、樋口広芳・東京大学名誉教授の研究グループにより行われました。オオハクチョウ 25 羽の追跡では、伊豆沼で越冬、2 月下旬から 3 月上旬に一部を除き北海道東部へ、カムチャツカ半島へ向かった 1 羽以外はサハリン経由でアムール川河口付近へ、その後オホーツクやマガダンの沿岸地域に滞在したのち、コルイマ川やインディギルカ川の中流域に到達しました(平均 3800km、86 日)。多くの個体が途中の中継地に長く滞在し、羽を休め、栄養補給をしています。

コハクチョウの追跡調査(27 羽)では、2009―20012 年春、北海道北端のクッチャロ湖を飛び立ち、サハリンの東岸や西岸に沿って北上しアムール川河口やサハリン北部に移動、しばらく滞在し、オホーツク海を縦断して、マダガンやオホーツクに至り、そこからコルイマ川沿いに北上し、コルイマ川河口部のツンドラ地帯に到達しました(平均 6500km、50 日)。(樋口広芳著『鳥ってすごい！』山と渓谷社/2016 年)

生息地ネットワークワークの重要性

世界的な海洋汚染や湿地や干潟の消失、さらに地球温暖化が、渡り鳥の生息や繁殖に重大な影響を与えています。生物多様性が危機にさらされているとき、渡り鳥も例外ではありません。

鳥の渡りには環境の変化を知らせる様々な情報が示されているはずです。一例を挙げれば、北サハリンのチャイヴォ湾の水辺の草地で営巣するユリカモメの巣(2006 年 6 月)は、水に浸からないよう最高高さ 45 ㎝に乾燥した草やスゲの茎を積んだ上に作られています。温暖化が進み出水が多くなれば、巣はますます高くなるか、巣を放棄することになるでしょう。チュコト半島のツンドラの上のコハクチョウの巣の高さは 30 年前に 50－60 ㎝と報告されていましたから、今はもっと高くなっているかもしれません。

このような渡り鳥の情報が、生息地ネットワークにおいて共有され、地球温暖化に対処していくことが大切です。渡り性水鳥の保護を目的に東アジアの多国間協力を進めるために 2017 年 4 月中国北部のフンボイル市で開かれた「フライウエイパートナーシップ」のワーキング会議では、ロシア極東からオーストラリアにかけて 135 カ所の重要な渡り鳥の渡来地が登録され情報が共有されているものの、日本と韓国で毎年 1 月に実施されるガンカモ全国調査の結果が海外ではあまり知られていないことが報告され、こうしたデータを海外の研究者が利用できるようにすることが重要だと指摘されました。

このように各国の調査情報はもちろん、ロシア・日本の二国間の情報交換や共同活動が、中国・韓国を含めて東アジア諸国のネットワークで共有され、生かされることが望まれます。

東京都民の鳥＝ユリカモメ

47 都道府県ではンボルの鳥が選ばれています。そのうち 16 都県で渡り鳥が選定され、14 種を数えます。冬鳥と夏鳥がそれぞれ 7 種で、冬鳥はハクチョウ(青森、島根)、ガン(宮城)、ユリカモメ(東京)、カモメ(神奈川)、ツグミ(福井)、アビ(広島)、ナベヅル(山口)です。

興味深いのは東京のユリカモメが「都民の鳥」となっていることです。東京都でなく東京都民のシンボルなのです。その経緯は承知していませんが、一層親しみが感じられます。しかしそのユリカモメの生まれ故郷がロシアであることは、あまり知られていないようです。『伊勢物語』にあるように、その昔在原業平とおぼしき人が隅田川の渡しで「わが思う人はありやなしや」と都鳥に問いかけたのも無理はありません。

写真;為貞氏

ユリカモメの繁殖地

カモメの種類は多く、世界に 54 種。日本では 25 種以上が記録されていますが、普通見られるカモメは 5－6 種です。ウミネコとオオセグロカモメが留鳥で、ユリカモメ、セグロカモメ、カモメは冬鳥です。

ユリカモメは、極東ではコルイマ川下流、南コリャーク高地、カムチャツカ半島、サハリン島北部、アムール川低地、シャンタル諸島、プリモルスキー地方の西部(ウスリー川の低地やハンカ

湖)など広範囲に繁殖しています。越冬地の日本への飛来は、カムチャツカ半島から鳥の足環調査で早くから確認されていました。サハリンからの最も近い越冬地は日本、朝鮮半島、中国です。

神奈川県の鳥　カモメ

神奈川県のシンボル鳥のカモメは、総称のカモメではなく種のカモメだとされ、やはりロシアからの渡り鳥です。このカモメはウミネコよりも小さく、ユリカモメより大きい。背は淡い青灰色、翼の先は黒くて白い斑点があるので分かります。カモメの尾は白いが、ウミネコは尾の先端近くに黒い帯があります。

繁殖地は極東ではコルイマ川、アナドゥイリ川の流域から南へオホーツク海西沿岸、カムチャッカ半島、ペンジナ川低地、コリャーク高地、カラギン島です。サハリンは渡りの中継地で、しばしばユリカモメやオオセグロカモメなどとの混成群をつくり、50 羽から 400 羽の群れで 9 月初めに、日本列島や中国南部まで渡ります。

宮城県の鳥　ガン

ガンは日本では昔から霊の鳥として迎えられました。ガン類は世界に14種が分布し、日本では9種類が記録され、多いのはマガン、次はヒシクイ、コクガンです。明治時代までは関東地方にも広く飛来していましたが、現在では飛来地は少なく、宮城県の伊豆沼内沼、蕪栗沼、化女沼が主な飛来地です。

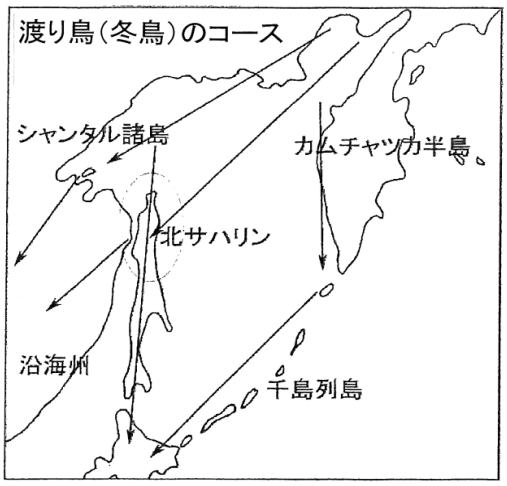
ガンの繁殖地は、日本への渡りが多いマガンで見ると、東シベリア海やチュコト海の沿岸、チュコト半島の西地域、アナドゥイリ川の流域、アナドゥイル湾から南へコリャーク高地に至るベーリング海の沿岸で、離れた繁殖地ではマガダン近くのオホーツク海沿岸があります。

日本への渡りの中継地である北サハリンでは、渡り時期に 6 種のガンが記録され、全体的にはマガンが最も多く、ヒシクイがそれに次いでいます。北サハリンでのガンの春の渡りの開始は 4 月の終りから 5 月の初めで、湾やその海峡の氷が解け始める頃です。秋の渡りは 9 月から 10 月に始まり、ピークは 9 月下旬から 10 月上旬です。ガンは昼夜飛行しますが、夜間の飛行が多く、マガンは約 30－60 羽の群れで渡ります。越冬地は日本、朝鮮、中国です。

サハリンは渡り鳥たちのハブ空港

ロシア極東から冬鳥が飛来するコースはいくつかあります。北極海沿岸からオホーツク海沿岸のマガダンあたりに飛んで来て、さらにアムール川の河口やシャンタル諸島周辺へ飛び、そこから中国大陸の方向へ向かう鳥、またサハリンを経由して北海道へ渡る鳥もいます。またカムチャツカ半島のオホーツク海側に集合して休息し、サハリンへ渡るコースと千島列島を通って北海道に来るコースもありますが、北サハリンは多くの渡り鳥の重要な中継・休憩地になっています。北サハリンが渡り鳥のハブ空港になっているわけです。

図は、ロシア極東からオホーツク海を渡り、沿海州、サハリン、千島列島を経由する渡り鳥のコースです。重要な中継地は、カムチャツカ半島のモロシェチナヤ川河口、北サハリンの各湾、シャンタル諸島の湾、アムール川の河口あたりにあります。そのほかに、シベリア―日本海―本州というコースがあります。



日本に来る多くの鳥は、サハリンを通って、宗谷海峡を越えて、北海道から本州の方へ渡って来ます。この宗谷岬に 2005 年から風力発電の施設が稼働しており、渡り鳥の通り道に大きな風車があるものですから、これが非常に問題になっています。『バードストライク』で多くの渡り鳥が犠牲になるおそれがあるのです。この風力施設は、本格的なアセスメントなしで作られたとのことです。エコロジーの問題で、自然エネルギーの利用を推進していかなければなりませんが、十分な事前調査や稼働後のモニタリング調査の継続が求められます。2017 年 11 月の日ロ渡り鳥条約会議(モスクワ)で日本から風力発電施設でのバードストライクの防止策の検討が提案され、極東地域における風力発電の導入状況について今後継続して意見交換することになっています。

鳥たちの生きる意思が人間に訴えかけるもの

私が渡り鳥ついていつも思うことは、鳥の渡りは風が北から南へ、南から北へ吹くといった自然現象とは違うということです。鳥の渡りには、一羽一羽の生きようとする小さな懸命な意思が群れを形成し、集団として生き抜こうとする大きな躍動感、力強い生命力が感じられます。鳥の渡りは命がけの行動であり、決して優雅な観覧飛行ではありません。当然天敵や嵐にも遭遇します。それだけに私たちに与える感動も大きいのだと思います。

太古からこの地球上を行き来している渡り鳥は、地球の気候変動、温暖化や砂漠化などの環境の異変を真っ先に感じとり、私たちに教えてくれています。鳥が現れなくなった世界が、どんな世界なのか私たち人間はまだ十分に分かっていないのかもしれません。渡り鳥は架け橋になって、私たちが忘れかけている豊かな自然を想起させようとしているように思います。

渡り鳥の群れには一羽も犠牲を出さないという一体感がひしと感じられます。ですから、ロシアの人たちは「また無事に帰ってきてくれよ」と鳥を送り出すのです。迎え入れる私たちは安心して冬を過ごさせたい。『けふからは日本の雁ぞ楽に寝よ』の一茶の句が思い出されます。渡り鳥を介して私たちがつながることは、人間同士が国境を超えて平和の問題を語るうえで重要なことではないでしょうか。

昨年 10 月 5 日に大阪日ロ協会の講演会が行われました。以下は、ソ連時代から 40 年以上ロシアビジネスに携わって来られた㈲トライデント社・岩佐毅氏の笑い話から見たロシアのお話です（編集部）。

「笑いの王国ロシアを語る」

アネクドートに表われた庶民の心

岩佐　毅（有限会社トライデント・代表）

私は、神戸市外国語大学でロシア語を勉強しまして、卒業後神戸にあった白系ロシア人の貿易会社で 7 年ばかり修行して、1977 年に 32 歳で小さな貿易会社を作り独立しました。当時全国の港に入る年間約 4 千隻のソ連船への船舶用品の販売から始めて、やがて舶用機器、建設機械の輸出、日本、韓国、シンガポールでの船舶修理事業にも事業を拡大し、一時ナホトカ港湾管理局とともに船舶会社も経営しました。最初はとても上手くいきシンガポールにも現地法人を開設するなどして、年商 20 億円ほどになっていました。しかし、ソ連の崩壊(1991 年 12 月)によるビジネス環境の激変で一気に倒産してしまい、52 歳ですべてを失いゼロになりました。

そこから色々ありましたが、もう一回 10 年ほど頑張って、有限会社トライデントという今の会社を再度立ち上げて、現在、中古自動車部品輸出販売に従事しており、年商 2 億円くらいですけれども、ロシアと順調に商売をやっております。

また、ビジネスのかたわら「関西日露交流史研究センター」という組織を作って、シンポジウムを開いたり、日露の歴史交流に関する書籍を出版したりルポルタージュを書いたりというような文化活動を少しずつやっています。

ロシアの小話（アネクドート）

今日のテーマは、ロシアの小話(アネクドート)です。

私が最初の会社を立ち上げてから今まで約40年間に、ロシア、ウクライナ、バルト三国など旧ソ連の諸国を 100 回以上訪問しました。しかし、観光で行った経験は一度もありません。全部ビジネスで商談に行ったわけですが、取引先をはじめ商談の合間にも沢山の人と知り合いになりました。そして、いろんな方々と交流する中で、ロシアの笑い話、アネクドートと言うのですが愉快な小話を沢山聞きました。一緒に酒を飲んで、わ～と笑うだけなんですが、非常に楽しくて結構ロシア語の勉強にもなりました。

旧ソ連時代はご存知のように社会主義、共産主義を目指す社会でありまして、共産党の独裁的支配下で人々は不満があっても表に出せませんでした。新聞もラジオもテレビも全部国営で、政党も共産党だけの一党独裁。選挙でも、誰が決めるのかわかりませんが立候補者は定数と同じだけしかいません。それが全員 100 パーセント当選する。そういう社会です。だから、みんなそれなりに良い国だと思って生活しているように見えるのですが、実はいろんな不満がいっぱい渦巻いておりました。で、ソ連という国はだんだん社会が硬直し衰退していって、最後はゴルバチョフの時代に崩壊してしまいました。これは突然起こった現象ではなくて、その前からもう腐敗が進行していて、大木が腐って最後にドッと倒れるときに最後にトンと突いたのがゴルバチョフじゃないかと私は思っております。

そういう社会で一般の庶民は完全に黙っていたのかというと、お酒を飲んでいろんな小話、笑い話を喋っては憂さを晴らしていたわけです。これがまた、喋るのが上手い人がいるんです。落語家みたいにね。で、そういう人たちから聞いた小話(アネクドート)が 100 近く現在私の頭に残っています。その中からいくつかをご紹介して、その背景や私の意見などを少し述べてみたいと思います。

あらかじめお断りしておきますが、アネクドートには男同士で酒を飲んでおしゃべりするものが多かったので、これから紹介する小話には、女性の方には申し訳ないですが少し品のない話もあります。

ブレジネフ時代

私が最初にロシアに行ったのは 35 歳ぐらいの時です。ブレジネフの時代でした。私の学生時代には学生運動が盛んで、ソ連、中国の社会主義、北朝鮮とかいろいろありますが、社会主義、共産主義は素晴らしいものだとてっきり思っていました。しかし、最初モスクワに到着してびっくりしました。街に入る車の中で運転手さんが、不満をもう1時間ぐらいずっとしゃべり続けるんです。その内容は、簡単に言うと、例えば店に行っても買うものが何もないというような話です。道端でバナナを売ってまして、敷物の上に黒ずんだ腐りかけのバナナが積み上げて置いてあって、周りを子供が「バナナ、バナナ」と走り回っていて、それを買う行列が並んでいました。そういう時代だったんですね。その時代の小話を一つ。

ロシアの冬はマイナス 20 度ぐらいすぐになります。そんな寒いモスクワで、店の前に行列が並んでいた。行列の中に小さな女の子が袋を持って立っています。通りかかったアメリカ人旅行

者がそのロシア人の子供に尋ねました。

旅行者:こんな寒い日にどうしたの？

女の子:この先で牛乳売ってるの。牛乳買うために行列してるの。

旅行者:え、こんな寒いのに。あなたお母さんはいないの？

女の子:お母さんはね、向こうのお店でパンを買いに並んでるわ。

旅行者:あらっ、じゃぁお父さんは？

女の子:お父さんはね、宇宙飛行士なの。今、月に向かって宇宙を飛んでるわ。

旅行者:……。

ものすごいアンバランスですね。宇宙に人工衛星を飛ばす国が、足元では行列をしないと牛乳やパンが買えない。この小話、私が言ったんじゃないですよ。ロシア人ですよ。で、みんなでわ～って笑うんです。

ソ連社会主義への不満

では、別の話。ジャーナリストがロシア人に質問しています。

ジャーナリスト:今の社会主義社会をどう思いますか？

ロシア人男性:(少し考えて)そうですねぇ～、うちの奥さんに対する気持ちとほぼ同じようなものですね。

ジャーナリスト:それはどういう意味ですか？

ロシア人男性:まぁ、少しは愛してますよ、社会主義も奥さんも。でも、できたらなるべく早く別の「女性」に変わってもらいたいし、「社会」も別のものに変わってもらいたいと思っています。だから同じ気持ちです。

これ、ソ連時代にロシア人が言ってたんです。新聞には書けません。ラジオでも言えません。しかし話し言葉はその場で消えてしまうわけですから、酒を飲んだ時にはこういう話をよくしていました。

政治的な風刺の効いた小話は特にモスクワの人からよく聞きました。

ある小学校で先生が子どもたちに国際連帯の大切さを教えています。中米にニカラグアという国がある。この国は非常に貧しい。家に帰ったら明日は１ルーブリずつお母さんからもらってきなさい。国際連帯のために、みんなでお金を集めて援助金を送りましょうと先生は言いました。それで、翌朝、子供たちは１ルーブリを先生に差し出すのですが、何故か一番うしろにいるアナトーリ君だけは知らん顔をしている。

ここで、先生とアナトーリ君の会話です。

先生:アナトーリ、昨日、先生は国際連帯がどんなに大事か、ちゃんと説明したでしょ！

アナトーリ:うん

先生:じゃぁ、1ルーブリは？

アナトーリ:お母さんが先生によく聞いておいでって。「ニカラグアには共産党がまだないのに、どうしてみんな飢えて貧しい生活をしてるの？」

これ、わかりますか？　ロシア(ソ連)には共産党があるからみんな飢えて大変な生活をしている。ニカラグアには共産党がないのになんでそんなに貧しい生活をしているのか、ちゃんと理由を聞いて来なさいとお母さんが言ったというオチですね。

私びっくりしましたね。こんなことを平気で言うんですよ。ブレジネフ時代の末期には経済停滞がかなりひどくなっていました。こういう話を聞いて、私はこれは大変な国やなと思いました。

ブレジネフ小話～その１

ブレジネフは 1982 年 11 月に亡くなりました。私はブレジネフが亡くなった日にサンクトペテルブルグ(当時はレニングラード)におりまして、タクシーで移動している時にラジオから荘厳な音楽が流れて来ました。それからアナウンサーがブレジネフの経歴を長々と読みあげて、何時何分に亡くなりましたという放送をしました。しばらくしてモスクワにもどったら、ちょうど葬儀の直前ですが、遺体が安置されていた労働会館に弔問台があって、たくさんの人が花を手にして弔問のために町中あふれかえって並んでいました。これは動員されたのではないと思います。みんな自発的に来ていましたね。ブレジネフは 18 年間共産党の書記長で、ソ連のトップの座についていました。人々からそれなりに愛されてはいました。はじめはよかったのですが、だんだんと経済が疲弊してきて、最後の方にはあまり人気がなくなって……、ブレジネフのこんな小話があります。

ブレジネフがアメリカに行きました。

テレビに出演することになって、ワシントンで大演説をやりました。

この演説の様子はソ連でも放送され、クレムリンでブレジネフ演説の原稿を書いた書記が見ています。

ブレジネフの演説は一時間ほどで一度終わったかに見えましたが、彼はまたメガネをかけ直して同じ演説をもう一回やり始めました。

そうしたら、演説原稿を書いた書記が驚いて言いました。

「あ～、しまった！」、「ブレジネフに原稿コピーをうっかり 2 つ渡してしまった！」

ブレジネフは年老いてしまって、同じ原稿を気付かずに 2 度読んでるというわけです。はっきりと批判しているわけではないのですが、やっぱり 18 年間の長期政権の間に政治も経済も劣化して、社会が衰退していることへの不満が、小話になってふっと出てくる。そういう時代でした。

ブレジネフ小話～その２

ブレジネフの次の書記長にはアンドロポフがつきました。KGB の長官だった人ですが、1年ほどですぐ亡くなる。その次はチェルネンコです。この人も老齢ですぐに亡くなるのですが、この小話はチェルネンコがまだ生きている時に酒の席で聞きました。

アンドロポフが死んで天国に召されました。そして天国でブレジネフと再会しました。ブレジネフは、「お～、よく来た」「久しぶりだ、一杯やろう」と言って、アンドロポフとウォッカで乾杯しました。そして、「クレムリンの様子はどうだ？」といろいろな話をしました。

ブレジネフ:「ところでアンドロポフ君、わしは天国に来る前に老眼鏡をクレムリンに忘れてきたんだが、君は持って来てくれたかい？」

アンドロポフ:「いや、あなたが老眼鏡を忘れたことを知らなかったから、持って来ていませんよ。」
ブレジネフ:「それは困った。眼鏡なしではプラブダも読みにくいし、イズベスチアも読みにくい。」
そこでアンドロポフがすかさず言いました。
「同志ご心配なく！　間もなくチェルネンコがこちらに持ってきますから」

これ、誰が考えたんだろうと思いますね。当時まだチェルネンコは生きてたんですよ。しかも、小話のとおり書記長になって1年ぐらいでまたすぐに亡くなりました。メガネを持っていったのかどうかはちょっとわかりませんけどね。

直接的にロシアの政治は良くないとか、そんな話はしないのです。だけどやっぱり不満はある。それを小話にして笑い飛ばすわけです。

ロシア名物＝行列

ブレジネフ、アンドロポフ、チェルネンコと老人政治家が相次いで亡くなった後に、日本で大変人気のあったゴルバチョフさんが共産党書記長になります(1985 年 3 月)。

ゴルバチョフ時代は、いわゆるペレストロイカで、社会主義の枠内でソ連社会を改革しようとした。これは意義のある試みだったと思うのですが、しかし上手くいかなかった。急激過ぎたんですよね。

そして、まずゴルバチョフは、禁酒令を出してお酒の販売を制限しようとした。そうするとロシア人はもう生活の楽しみが無いわけですね。そのときに聞いた小話です。

禁酒令でロシア人の不満が高まった。何人か集まると、もうゴルバチョフの悪口ばっかりです。
「酒も回してくれんような政治家はけしからん！」
そこで、ゴルバチョフを殺してしまえと、ある男が興奮してクレムリンに駆けつけました。
そしたら、クレムリンの回りを長い行列が取り巻いています。
「おい、これは何の行列だ？」と聞くと、それはみんな殺気立って「ゴルバチョフを殺してやる」と言ってやって来た酒飲みたちの行列だったのです。

当時のソ連(ロシア)はどこに行っても行列なんですね。そこでこんな小話もできたわけです。

ロシア人は町に出かけるときは必ず買い物袋＝ロシア語でアボシカを持って行きました。買い物袋は「モシカ袋」って言うのです。“もしかしたら“何かよい売り出しに当たるかもしれない。それで、行列を見たらともかく後ろに並ぶ。並んでから、何を売っているか聞く。もしかしたらよいものが手に入るかもしれないので、モシカ袋なのです。まぁ、そんな状態でした。

艶笑小話～その１

男女の話とか、いわゆる艶笑小話もいっぱいありました。こういう話が非常に得意なのがウクライナのオデッサの人たちでした。オデッサには、私の会社の一番よい取引先で黒海船舶公団という 350 隻の船を保有しているソ連最大の船会社がありました。それで、オデッサにはしょっちゅう行っていたのですが、オデッサの人たちは非常に愉快なユーモリストで、面白い話をたくさん聞かされました。それらのほとんどは艶笑小話です。

ある夫婦に赤ちゃんが生まれました。
家族みんなが、おじいさんやおばあさん、兄弟や親戚の人が赤ちゃんを囲んで顔を覗いた。
すると、生まれたばかりの赤ちゃんがぱっちり目を開けて、「じいちゃん」と言います。
家族はびっくりして、「この子は天才だわ、生まれて 3 日目にもうじいちゃんて呼んだ！」
そしたら翌日、おじいさんがぽっくり亡くなったのです。
葬式がすんで 2～3 日後に、またみんなで赤ちゃんの顔を覗きまし赤ちゃんは、また目をぱっちり開けて、「ばあちゃん」と言いました。
すると翌日、おばあさんがぽっくり亡くなって、また葬式を出しました。
「この子はすごい予言能力を持っている」と評判になりました。
しばらくして、またみんなで赤ちゃんの顔を覗くと、今度は「パパ」と言うではありませんか。
お父さんは、「いよいよ次は私の番だ。私も明日か明後日には死んでしまうんだ」と青くなりました。
こうなったらお風呂に入って身を清めて、最後にウォッカでも飲んで死ぬしかないと、しこたま飲みました。
そして、酔いつぶれて翌朝目が覚めたが、死んでない。その翌日もまだ死にません。
「おかしいな、予言能力が無くなったのかな？」と言っていたら、連絡が入りました。
「昨日、お隣のおじさんが突然亡くなったんだって！」

やっぱり赤ちゃんには予言能力あったというお話です。

艶笑小話～その２

もう一つ。

ある国営工場の工場長が出張することになりました。カバンに書類をいっぱい詰めて、「一週間ほどモスクワに行ってくる」と奥さんに言って出かけました。空港まで行ったら、大事な書類を一つ忘れているのに気がついた。慌てて車で家に帰ってきました。そして、ドアをドンドンドンと叩くと、中では奥さんが彼氏と真最中。彼氏は慌てて洋服ダンスの中に隠れます。

ドアを開けて入ってきた旦那が聞きます。
「おい、誰か来てたのか？」
「いいえ、誰も来てないわよ」と奥さん。
「いや、何か人の気配がするな」と旦那はあちこち探し始めます。
お風呂を開けて覗くが誰もいない。
ロシア語では「誰もいない」って言うのを“Никого нет”（ニカボー ニエット）と言います。
トイレを開けて覗く。“Никого нет”（誰もいない）
あちこち順番に見ていきますが、その度に、“Никого нет”、“Никого нет”、……
洋服ダンスの中の彼氏はガタガタ震えています。いつ開けに来るかわからないと気が気ではないのです。
そうしたら、下の階で突然火事が起こりました。煙がばぁーっと上がってくる。
夫婦は、慌てて家財道具をどんどん外に運び出します。ところが何故か洋服ダンスはいつまでも運ばない。他のものはどんどん運んでいくのに、タンスだけはそのままです。
煙が充満してくる。彼氏はもう焼け死ぬのではないかと思って、とうとう我慢できずに大声で叫び始めました。
「洋服ダンスを忘れないで！」「大事な洋服ダンスを忘れないで！」
こういう類の小話で、同じパターンのシリーズがいっぱいあるんですよ。
出張に出かけた旦那が、書類を忘れて空港から家に帰ってくる。彼氏が慌てて洋服ダンスの中に隠れて、旦那の家探しが始まるところまでは同じです。
お風呂を開けて覗く。“Никого нет”（誰～れもいない）
トイレ開けて覗く。“Никого нет”（誰～れもいない）
いよいよ洋服ダンスの前に来ます。
扉を開けたら、中で彼氏が決死の形相でナイフを構えて睨んでいるではありませんか。
二人の目と目が合って、火花が散りますが、今度は旦那が声を震わせて叫びます。
“в шкафе тоже никого Нет”（洋服ダンスにも誰～れもいない！）
　ナイフを構えてるから怖いんですね。
……というような話が延々と続いて、酒が入って、大笑いして盛り上がるわけです。

素朴なロシア人

　本当に面白い話がいっぱいです。私がロシアによく行くと言ったら、ロシアに行ったことのない人は「怖いでしょう？」とよく聞くんですよ。「怖いですよ」と私は答えます。
「何が怖いんですか？　軍隊がいっぱいいるんですか？」
「いや軍隊なんか町にはいませんよ」
「じゃぁ、何が怖いんですか？」
「それはもう、グラマーで綺麗な女の子がいっぱいで、怖いですよ」 というような話をします。
　ソ連時代の庶民の生活は西側の資本主義国に比べて貧しかったし、政治的な発言も出来ないし、自由があまりなかった国でした。でも、ロシア人のハートは凄く綺麗というか、穏やかというか、善良というか、ともかく明るかったですね。それは私、びっくりしましたね。
　最近のロシアは、もう社会主義でも共産主義でもありません。資本主義化して、お金儲けする人はものすごく儲けています。お金、お金の社会になってしまったとお年寄りは嘆いています。社会主義時代の方が、人間が真面目でお金に狂わなかった。今はもうお金をめぐるトラブルがもの凄く多い。
　今になって思うに、私も当時ロシア人と酒を飲んで大笑いしましたし、嫌な思いをしたことは全然ありません。とくに日本人はロシア人から特別好意を持って見られていた。今もそうですね。
　初めてモスクワに行った時、道を歩いてたら若い青年が近づいて来て、「日本人か？」って聞くんです。「そうだ」と言ったら、にこっと笑って、「握手してくれ」。で、握手しながら、トヨタ、ナショナル、ソニーと、知ってる限りの言葉を並べながら、「日本人と初めて話をした」って喜んでるんです。
　モスクワのホテルでエレベーターを待っていると、掃除のおばちゃんが近寄ってきて、「日本人か？」と聞く。「そうだ」と言ったら、「やはり、賢そうな顔してるわ」とつぶやくように言う。「日本人とドイツ人は世界一賢い」、「ロシア人は駄目だ」と言うんですね。よく考えたら第二次世界大戦でドイツも日本もソ連にボロ負けした国ですよ。そんなことをおばちゃんに言って議論しても仕方ないから黙ってましたけども、そういうことがよくありました。

社会主義時代には「商売」が犯罪だった

　社会主義時代には、まぁ日本では考えられないようなことがいっぱいありました。
　例えば、冬のレニングラードで夜行列車に乗るために鉄道駅へ急いでいた時です。気温マイナス 20 度くらいで雪が降ってました。そんな深夜におばさんが一人、毛皮のコートは着てましたけども、道端でウォッカを持って立っている。おばさんに「何してんの？」と聞いたら、「売ってるんだ」って言う。「えー、こんな夜中にウォッカ売れるの？」って言ったら、「よく売れる」と言うのです。
　つまり、もう店は閉まっているわけです。家で友達とワイワイ飲んで、アネクドート喋って、わーっと盛り上がってウォッカが足りなくなった時に、道路に出たらおばちゃんが売っているわけですね。よく売れるんだと言っていました。
　しかし、この商売はその当時は犯罪だったんです、実は。
　ソ連社会主義の下では、個人が物を買ってそれを転売するのは「投機行為」で犯罪だとされていたわけです。商店は全部国営で個人商店なんて無い社会です。だから、物を仕入れて売る商売は資本主義だということで駄目なんですね。でも、それでは社会は回らない。実際にはみんなやってました。こういう商売をいっぱいやっていました。建て前と現実が違う。それもソ連が崩

壊した原因の一つでしょう。

シベリアの少数民族

ロシアにはロシア人を含めて沢山の民族が住んでいます。1億 4000 万の人口のうち 7～8 割はロシア人ですが、少数民族が 150 以上いる。何百人とか、何千人とかしかいない少数民族が沢山います。シベリアはもともとロシアでも何でもありません。ロシア人が毛皮をもとめて西から東へ進出していって領土に組み入れられていった。だから、シベリアにはアジア系の少数民族が沢山いる。ハバロフスクの周辺にはナナイという川で魚を捕る民族がいます。カムチャツカやマガダン辺りにはコリャックというインディアンによく似た民族もいます。シベリアの一番奥地にチュクチという少数民族がいて、このチュクチ族をテーマにした小話がいっぱいありまして、少し民族差別的なニュアンスもありますが、一つ紹介します。

ブレジネフ時代に、チュクチのコルホーズ(国営農場)がトナカイの飼育で大きな成果をあげました。コルホーズの代表者がモスクワに呼ばれてブレジネフから勲章をもらいました。そして、お土産に「カマス」という 10 トンぐらいある大型トラックをもらいました。代表者は喜んでそれを持って帰ります。

それから1年経って、また大きな成果が上がって、代表者がブレジネフにモスクワに呼ばれました。

ブレジネフ:(勲章与えながら) 君、去年もいい成績を上げて、カマスをあげたね。

代表者:あー、ありがとうございます。

ブレジネフ:ところで、あのカマスは今どうなっとるかね?

代表者:あの大型トラックをいただき、ありがとうございました。ただ一つだけ困ったことがあるんです。

ブレジネフ:なんだね?

代表者:実は犬が大変疲れるんですよ(つまり、大型トラックを橇代わりに犬に引っ張らせている)

ニューリッチ (新興成金)

ご存知のようにペレストロイカは上手く行かなくてソ連は崩壊しました。その後ロシアはしばらく大混乱しましたが、プーチンさんが大統領になってから一生懸命立て直して、経済も立ち直ってきました。

2000 年代に入ってから原油価格の高騰に連動して、ロシア経済はソ連崩壊後の疲弊した状態から急激に回復して、一時期高成長を遂げました。今はもう日本と同じようなスーパーがいっぱいあって、あらゆる物資が満ち溢れています。ソ連時代の物不足はもう過去のことです。今はみんな普通の暮らしをしていますし、私はこれからロシアはますます普通の国になっていくだろうと思っています。

で、急激にロシア経済が回復したときに、ニューリッチ(新興成金)が登場しました。ニューリッチにまつわる小話を一、二ご紹介しておきます。

ニューリッチの人が、買ったばかりのピッカピカのベンツに乗って外出しました。運転していたのは奥さんです。当時ロシアではまだ携帯電話が普及していなかったので、「ちょっと電話をかけさせてもらうわ」と言って、ベンツを買った店に立ち寄って電話を借りました。店から奥さんが出てきたら、もう一台ベンツがついてきている。家に帰ったらご主人が言います。

主人:なんでベンツがもう一台ついて来たんだ?

奥さん:今、ベンツの店で電話を借りたのよ。

主人:だから、なんでベンツがもう一台ついて来たんだい?

奥さん:だって電話借りるだけじゃ悪いもん。何かすこしでも買い物しないと。

大金持ちのロシア人が、ダイヤモンドや金銀を張りつめた最高級のベンツを買いました。喜んで乗り回して一週間ほどしたらまた店に来て、全く同じ最高級のベンツを買いました。店の人が聞きます。

店員:お客さん、確か1週間前にこれと同じ最高級のベンツをお買いになったばかりですが?

金持ち:うん?

店員:1 週間前にお買いになったベンツはどうしましたか?

金持ち:ああ、あれね。ちょっと灰皿がタバコで一杯になってしまったもんで、買い替えるんだよ。

ロシアは大きく変わった

ちょっと極端ですけれども、大金持ちは確かにいます。

モスクワで日本のアンティークショップを経営しているロシア人がいます。何を売っているかというと、たとえば鎧兜とか日本刀や浮世絵春画を扱っているとのことです。どんな日本刀を売ってるのかと聞くと、「この前、1千万円の名刀を売った」って言ってました。そういうものを買う人がいるんですよ、モスクワにね。

ウラジオストクで私が取引している自動車部品販売会社の社長の家に遊びに行ったことがあります。社員 10 人くらいの会社です。その社長の家が敷地 800 坪ぐらいもある 3 階建の立派な豪邸なんです。中も全部見せてもらったけど、もう凄い。で、車はアメリカから輸入した新車のランドクルーザー(左ハンドル)。奥さんはハイブレッドのレクサスです。まぁ、中小企業でもそういう人がいます。だから昔よりは相当変わってきています。着実にビジネスやっている中小企業も沢山あります。

ロシアの変化は早いです。物凄く早い。例えばウラジオストクの空港は、ソ連時代にはボロボロでしたが、ロシアになって 2 回移転して、今は最新の空港になっています。特にウラジオストクは、プーチン大統領が非常に力を入れて投資して、高速道路も建設され巨大な橋も架けられて大発展しました。ソ連時代の貧乏なころの話ばかりしましたが、ロシアになってあっという間に変わりましたね。

私は現在、15 人くらいのロシア人を日本に招いて出荷準備し、自動車部品輸出のビジネスをしているのですが、ロシアもだんだんと自由でいい国になってきましたので、これから日本とロシ

アがいい関係で発展してゆくのではないかと思っております。

中古車ビジネスの現況

質問が出ましたので、最後に、日本とロシアの中古車ビジネスについて少しだけお話しして終わりたいと思います。

今、ウラジオストクで走っている車は日本車ばかりです。日本車と言っても中古車が大多数ですが、レクサスとかランドクルーザーといった良い車も結構走っています。モスクワまで行くと、日本車だけでなくベンツとか韓国車もよく頑張っていますが、ウラジオに限って言えば 90%以上は日本車ですね。

実は 30 年くらい前のソ連時代末期から日本の中古車がロシアに輸出されるようになったのですが、最初はソ連船の船員だけが 1 台中古車を買えたのです。それから自由に貿易できるようになり、あっという間に広がりました。日本の中古車はすごい人気あって、これまでにロシアに輸出された中古車は 1800 万台を超えています。その中古車が今もほとんど走っています。

ソ連崩壊後のロシア(1990 年代)には、日本の中古自動車が大量にそして無制限に、年式制限も何もなしに輸出されました。それで、ロシア政府は途中で外国の自動車メーカーに投資してもらって新車工場を作ってもらうために、中古車の輸入規制を始めました。関税を引き上げたり、年式制限をしたりして、あまり古い車とまた新しい車も入らないように制限をしました。それで輸入中古車がかなり減りました。

ピーク時には年間約 60 万台がロシアに輸出されていたのが、十分の一に下がりました。最近また少し増えて 8 万台くらいになっています。日本から海外に輸出される中古車は年間約 110 万台です。だからその半分以上がロシアに出ていた時期があるのです。すごいマーケットだった。それが急減してからもう 10 年ぐらい経ちます。で、私はもう車ではなくて、中古自動車の部品を扱っているのです。部品はまだすごく売れます。つまり、新車は高いし、輸入制限で中古車も量が減った。だから車の買い替えが出来ない。そうすると今乗ってる車に乗り続けるために部品の需要がすごく伸びるということになったわけです。今は月に 7～8 本のコンテナをロシアに出しています。中古車部品市場はまだ伸びる可能性があります。

極東ロシアとくにウラジオストクやシベリアまで、1990 年代から 2000 年代にかけて日本から大量に中古自動車が広がり、日本車ブームが起こりました。それが極東ロシアにどのような文化的な影響与えたかということをノンフィクションタッチで描いた「右ハンドル」(ワシーリイ・アフチェンコ著、群像社)＊ という本が話題になっています。これを読むと、突然大量にロシアに出現した日本製中古車が旧ソ連社会に大きなショックを与え、ロシア人の生活や意識を急激に変化させていく過程や、対岸の日本文化の影響がどのようにロシア人の生活に浸透したかということが興味深く書いてあります。できれば、来年、著者のアフチェンコさんを日本に招いて講演会や交流会を開催したいと思っています。

＊アフチェンコ著『右ハンドル』は前号で紹介しています(編集部)

【ちょっと変わったベラルーシ留学記】　エピソード編 (2)

大学寮での生活 洗濯もベラルーシ流

鎌田 幸伸(ロシア語通訳案内士／奈良県在住)

食堂(スタローヴァヤ)

学生村には規則があって、8 月の夏休みになると授業のない学生たちは寮を出なくてはならない。だから 8 月の間寮は閉散として、各寮の 1 階にある食堂(ロシア語でスタローヴァヤ)も閉鎖されてしまう。9 月になって新学期が始まり学生たちが寮に帰ってくると、食堂は再び営業される。どの寮の食堂も似たような営業時間で、だいたい午前 10 時から開き、夕方 6 時に閉まる(私のいた寮は夕方 5 時に閉まった)。

8 月中、私は食材をスーパーで買ってきて寮の部屋のキッチンで自炊していた。けれど 9 月になって食堂が開くとほぼ毎晩食べに行くようになった。食事をつくる時間が惜しかったし、同居人の学生にも気を使わず規則正しく食事ができたからである。

スタローヴァヤとは、簡単に言うと「客が自分でお盆をもって料理をカウンターに取りにいく」食堂である。食堂の食事は寮によって味に違いがあった。雰囲気も違っていた。私の住んでいた寮はそこそこ美味しかった。ここは「食堂」と言うより「カフェ・レストラン」で、寮の地下一階にあるが寮の玄関を通らず外から直接入ることができ、一般の人たちも食事をとりにきていた。表の看板に「カフェ」と書いてあるだけあって少しお洒落な感じがして、どのテーブルにも綺麗なテーブルクロスがかけられ、テーブルの真ん中には紙ナプキンがきちんと備え付けてあった。客もこざっぱりした服装の人たちが多い。ただし、値段は少し高めだった。

私の寮の後ろ左側には、ベラルーシ大学経済学部の寮があった。その食堂は夕方 6 時まで開いていた。味は少し落ちるが値段はそれほど高くなく、よく食べに行った。日本円にして 300 円ぐらいで満腹になった。

さらに右斜め向かいの寮の食堂は夜の 8 時まで開いていた。そんな時間まで空いているのはこの寮だけである。ベラルーシ大学医学部の寮で、夜遅くまで開いているのはいいが味はもう一つ。経済学部の寮の食堂に行きそびれた時ここに行って食事

をした。

料理のメニューは、熱いスープ――ボルシチ、シチー(キャベツのスープ)など、肉料理――鶏肉のグリル、キエフ風カツレツ、豚肉(焼肉)、焼き魚、穀類――炊いた米、茹でたマカロニ、ジャガイモのピューレ(茹でたジャガイモをペースト状にしたもの)、茹でたソバの実など、サラダ――キャベツや海草、赤キャベツ(実はビーツか？)などがあった。その他のメニューには、コンポート(オレンジやリンゴをすりおろした果実ジュース)、クッキー、ケーキ、チョコレートなども置いてある。どうしてこんな甘いものが食堂においてあるかというと、ベラルーシでは昼食をビスケットで済ませる人もいて、それはごく普通のことだからである。また授業や勉強の後にチョコレートなど甘いものを食べてお茶を飲む習慣があって、安くておいしいチョコレート菓子がたくさん売られている(ここは甘党の天国みたいな国であった)。

隣の寮のスタローヴァヤはいかにも「食堂」という感じで、クロスを掛けていない簡素なテーブルにアルミの椅子が等間隔に置いてあった。テーブルは四人掛けが 8 つくらい。部屋の奥に置いてあるテレビはつけっぱなしであった。店員は 3 人いた。若い男性(軍隊を除隊したのか、両腕にタトゥーを入れて、頭は丸刈り)、若い娘さん、そして 50 歳くらいのオバサンである。多分このオバサンがチーフで、3 人ですべての食事を用意しているようだった。彼らは交代でカウンターに出て客の注文を聞き、料理を器に盛り付けて出す。3 人とも制服らしい黒地に赤い縁の服と黒いズボンを身につけていた。

娘さんは 18 年前に死んだ私の母に似ていた。外見はいかにも「田舎育ち」という感じであか抜けたところはないけれど、栗色の髪をショートカットにして、きれいな緑色の目をしていた。その目には人生と人へのあたたかな信頼の光がさしていて、私の母に似ていたのだった。私は彼女をお茶に誘ってみたかった。だが、オバサンが一人で給仕に出ることはあっても、この娘さんが一人になることはまずない。彼女のそばには軍隊帰りらしい若者がこれまた「屈託のない笑顔」でレジにいる。挨拶をするとき隙をみて名前を聞いてみた。

「リーザといいます。」

「あなたは、もう結婚しているのですか？」と聞く。

「いいえ、まだ結婚していません。けれども彼氏と住んでいて、子どもができるのを待っています。」と“にこにこ”として答える。

(普通、結婚してから子どもをつくるのじゃない？　順番、逆のような気がするんだけど…)と思ったが、「ああ、そうですか」と笑ってごまかした。

11 月の半ば、この国を発つ前の日にこの食堂を訪れた。偶然にもリーザが一人でいる。私は彼女に別れを告げた。

「リーザ、僕がここへ来るのは今日が最後です。今までありがとう。さようなら。」

「まぁ、もう日本に帰ってしまうの。また、いらっしゃいな。」

「いいえ、多分もうこの国には来ませんよ。だから До свидания (ダ　スヴィダーニャ…また会う日まで)ではなく、Прощайте (プラシャーイチェ…もう二度と会うことはないお別れ)です。」(Не до свидания , а прощайте .)

彼女は私の方へ近寄ると、つと片手を差し伸べた。私は思わずその手を握りしめた。

「いいえ、そんな風に思ってはいけないわ。До свидания (また会う日まで)よ。До свидания！」

洗濯室

学生寮では、3 週間に一度ベッドのシーツとタオル一式を無料で交換してもらえる。地下一階の寝具管理室の担当者のところにシーツ類を持っていけば交換してもらえた。中年の大柄な

銀髪の管理者さんは専用のノートをつくっていて「誰かが間違って早めに持ってこないよう」キチンと管理していた(私は 2 週間に一度くらいシーツを**洗濯した**。「交換」ではなく「洗濯」していたのだ…その理由はこの後述べる)。寮の同じ階に洗濯室があった。小学校の教室二つ分くらいの大きな部屋の片側に、ヨーロッパ式洗濯機がズラリと並べてあった。その反対側にこれまた大きな乾燥機が数台並べて置いてあった。部屋を管理しているのは金髪の初老のおばさんである。ヨーロッパ式洗濯機と日本式洗濯機は違う。日本式は上から洗濯物を出し入れする。機械は左右に回って衣類を洗う。ヨーロッパ式は衣類をコインロッカーに荷物を入れるように側面から入れる。機械は時計のようにまわり衣

類を洗う。日本式洗濯機は汚れ物を一杯に詰め込んだら回りにくくなるし汚れも落ちにくくなるが、ヨーロッパ式は違う…目一杯詰め込んだ方がいいのである。

洗濯は日本円にして一回400円ぐらいした。日本のコインランドリーなら一度の洗濯で 200 円ぐらいだから、初めて聞くと値段は「高く」感じる。けれど実際ははるかに安かった。一度の洗濯に 6 キロ以上の衣類を出していいし、それらが完全に乾燥するまで乾燥機にかけてもらえたからである。日本でこれだけの量の衣類をコインランドリーで洗濯し乾燥機にかけたら、軽く千円は超えるだろう。

……と、ここまで読むかぎり「ベラルーシの学生寮って、なんて安く親切に洗濯してくれるのだろう」と思うかもしれない。だが、「たかが洗濯ごときでこれだけ“文化の差”が出るの？」と驚くのはこれからである。

洗濯料金は洗濯室ではなく、事前に大学本部の会計係に行って払わなくてはならない。規定の料金を支払うと証明書が発行され、それと交換で洗濯してもらえる。大学の建物の 2 階に会計がある。白い壁に 30 センチ四方の小さな窓が二つあり、朝 9 時から夕方 4 時半頃まで開いている。学生はこの窓口で学費や寮費を支払う。8 月は基本的に大学は休みであり会計の窓口に並ぶ学生もほとんどいなかった。が、9 月に新学期が始まると授業の合間、会計の窓口には長蛇の列ができた。二つの窓口それぞれに 15 人くらい並ぶ。10 分は待たなくてはならない。昼になると係員は交代で休憩を 1 時間ほどとるので、一つになった窓口の前には後ろの壁まで学生が並ぶ。一度の洗濯料金を支払うのに 20 分近くかかると(オレ、一体何やってんの…)と思う。「洗濯室で直接料金を払えればいいのに。日本のコインランドリーみたいに直接洗濯機にお金を入れられればいいのに」と思うが「そういうわけにはいかない」のがベラルーシである。コインランドリー店は市中にひとつもなかった。待つ時間がもったいないので、私は窓口で 2 度分の料金を支払って二枚の証明書を出してもらった。

証明書を洗濯室に持っていくと、おばさんが 3 つのノートそれぞれに必要事項を書き込み、そのすべてに利用者がサインしなければならない。漢字で苗字を書くと、おばさんは「まぁ、すごい」と驚いた。ノートに書かれたサインを見ると、誰がどの国や地域からきているか大体わかった(漢字を常用している国は世界で 3 つだけである－日本、中国、ベトナム)。正直いって、この「サイン」なるものにどれだけ重要性があるかピンとこない。後に私がロシア語で Юки(ユキ)と書いたら、おばさんは「どうしてロシア語で書くの？日本語の方がかっこいいわ」と言った。

わからないのはこの 3 種類のノートである。大体、洗濯になんでそれほど多くの記録をとらなくてはいけないのか、それらをどこへ提出するのだろうか…。聞いてみればおもしろい話が聞けたかもしれないのに、聞き損ねた。大した理由ではないかもしれない。……。

スーパーでもらった一番大きな袋一杯に洗濯物を詰め込んで、両手に下げて洗濯室に持っていく。おばさんはまず奥の部屋の秤で洗濯物の重さを計量する。2 つの袋を合わせても 5 キロくらいしかならないと、おばさんは言った。「ダメねぇ、軽すぎるわ。6 キロから 7 キロなければいけません。洗濯機が壊れてしまうわよ。もっと他に洗濯物はないの？」

(洗濯物が多くないとこの国の洗濯機は調子悪くなるんだ…)。短期留学で少ない衣服しか持参せず、毎日似たような服を繰り返し着ている自分にはもう洗濯物がない。この国は湿度が低く空気が乾燥しているので汗をかかない。だから毎日上着を着替えることもない。「ちょっと待ってください」と自室に戻り、ベッドのシーツをみんなはぎ取って袋に詰め、もう一度計量してもらう。かろうじて 6 キロになる。おばさんは機嫌がよくなった。「頑張ったわね。これで洗濯機はよく動くわ」。こういう訳で、無料で交換してもらえるシーツは洗濯機にかけられるのだった。

洗濯粉は持参しなければならなかった。「洗濯粉なんてどれも同じ」と適当に安いのを買って持っていくと注意された。「その洗濯粉は手洗用でしょう？それを使い続けると洗濯機が壊れてしまうわ。これからは洗濯機用を買ってください」。洗濯粉は「手洗用」と「洗濯機用」の 2 種類があり、箱や袋の表面に表示があったのだ。(もしかすると私が知らないだけで、日本でも「洗濯機用の洗濯粉」があるのだろうか)。

おばさんは働き者であった。洗濯室は朝 9 時に開き夕方 5 時に閉まる。彼女は勤務時間を忠実に守った。休憩時間も忠実に守った。昼は 1 時間休憩をとり、洗濯室に鍵をかけてどこかに行った。休暇もしっかり取った。8 月の半ばを過ぎると二週間、洗濯室は閉室になった(ベラルーシでは、大学の先生も、職員も、スーパーの店員も夏に 2 週間ぐらい休暇をとる。この国では休暇をキチンと取るのが当たり前である)。

風邪をひいた日は必ず休んだ(日本だと風邪をひいたくらいで「会社を休む」と怒鳴られるが、ロシアやベラルーシでは風邪をひいたら皆必ず休む。それを周囲の人たちは「当然のこと」と受け入れる)。

……。8 月の半ばに洗濯室に行くと、寝具管理者のおばさんが「洗濯室は休暇で閉鎖中よ。二週間たたないと開かないわ。右斜め向かいの大学寮の洗濯室を使わせてもらえば…」と言うので、そちらに行った。行くと「ここはベラルーシ大学寮で、あなたの通っている言語大学の寮ではありませんよ。けどせっかく来たんだから洗濯してあげましょう。料金を郵便局でベラルーシ大学の口座に振り込み、その領収書を持ってきてください」と言われた。スーパーの郵便局まで歩いていって、窓口で口座振込みをし、領収書を出してもらい、再びその寮の洗濯室に持っていった。

洗濯室のおばさんが風邪で休んだ時、「前回と同じように」洗濯物をナップザックに詰めて(ベラルーシ大学の)寮に行った。

寮の受付で「今日、私の寮の洗濯室は閉まっているので洗濯させてほしい」と言って学生証を見せると笑われた。受付のおばさんは「ここはベラルーシ大学寮で、言語大学寮ではありません。言語大学寮は左隣です。案内してあげましょう」と外に出て左手の寮を指差した。

そちらの寮の洗濯室に行くと、係のおばさんは私に聞いた。「それで、水温は何度にしますか？」

私はバカ正直に返事した。「私は日本から来たので、あなた方の文化にまだ慣れていません。私の国では洗濯の水温にこだわりません。適当に洗濯をしてください」

おばさんは私が出した洗濯物の中からワイシャツを取り出し、その襟元の表示を見せた。「ほら、この服は 40 度ぐらいが適温だわ。洗濯するっていっても、何でもいいから洗濯機を回せばいいものじゃないのよ。しょうがないわねぇ、わかったわ。調べて大体の温度にしておくわ」。

寮には何百人という学生が寄宿している。だが洗濯室を定期的に使うのは学生の一部で、残りの学生は自室で手洗いしていた。お湯が無料で出る。しかも洗濯機を一度まわす料金で黒パンが 8 斤ぐらい買える。どうしてお金を払って洗濯しなければならないのだろう？　私は洗濯の手間と時間がもったいないから今回の留学ではほとんど洗濯室に頼った。けれども「時間よりお金の倹約」となったら、コート以外は全部手で洗っただろう。

この寮の洗濯室で私は“優等生”らしかった。挨拶はきちんとするし、正確なロシア語で会話した(「発音が日本風だ」と笑われたが…)。洗濯が終わる時間を指定されたらキチンとその時間に衣類を取りにいった(でないと翌日着る服がなかった)。おばさんの言うことも忠実に守った(おばさん相手にケンカを始める学生もいた…)。私は二週間ごとに来てはあれこれとロシア語でおばさん相手によく話をした。おばさんは親切で、時間があれば乾いた衣類をたたんでおいてくれた。……。

帰国の日、私は洗濯室にお礼に行った。お別れと今までのお礼を言い、日本から持ってきた絵葉書を渡した。おばさんは驚いた。

「…どうして日本に帰るんだい？…どうしてこの国を出て行くんだい？…ああっ、もう、行ってしまうのかい。そして…、今度はいつ来るんだい？」

「国家試験に合格したら、日本でロシア語を使える仕事に就きます。将来いつベラルーシに来られるかわかりません…」。

「…こんなにロシア語ができて、やさしくて、賢い人が、もう行ってしまうのかい…。わたしは自分の子どものように思っていたのに…」。

そして“ほろほろ”と涙を流した。私たちはメールのアドレスを交換した。その時、私は彼女の名前を初めて知った。

ビオレッタ＝「すみれ」という名前の女性だった。

（つづく）

ロシア文化フェスティバル in Japan

7月18日オープニング！ 今年も多彩なプログラム

「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」の開幕式は昨年 5 月 26 日に安倍首相とプーチン大統領の出席のもとモスクワで開催されましたが、その閉幕式は今年 6 月末に大阪で開催される G20 首脳会議にプーチン大統領が来日するのを機に日本で開かれる予定です。

そして、7 月 18 日にはロシア文化フェスティバル in Japan が、東京・上野の東京文化会館で、ボリス・エイフマン監督のバレエ「ロダン～魂を捧げた幻想」の上演をもって本年のオープニングを迎えます。以下、ロシア文化フェスティバルの今年 3 月以降の主なプログラムを紹介します。

- **新作映画「ソローキンの見た桜」**　(井上雅貴監督)
  3 月 22 日～角川シネマ有楽町ほか全国ロードショー
- **演劇　ワレリー・ベリャコービッチの「マクベス」公演**
  3 月 24 日～4 月 7 日／シアタートラム(三軒茶屋)
  劇団東演創立 60 周年記念公演
- **映画　アレクサンドル・ソクーロフ特集**
  2 月 23 日～3 月 15 日／渋谷・ユーロスペースにて
  「モレク神」「ペテルブルグ・エレジー」「牡牛座レーニンの肖像」「エルミタージュ幻想」など 16 作品を一挙上映！
- **バレエ・トラディション「ライモンダ」＆「ラ・シルフィード」**
  4 月 26 日／新宿文化センター大ホール
  出演；イーゴリ・コルプ（ﾏﾘｲﾝｽｷｰ劇場）、ルスラン・スタヴォルツォフ（ﾎﾞﾘｼｮｲ劇場）、田北志のぶ（キエフバレエ団）。主催；バレエ・田北志のぶオフィス
- **交響楽団はやぶさ＆マリウス・ストラヴィンスキー演奏会**
  5 月 6 日／東京オペラシティコンサートホール
  主催；友情の架け橋音楽国際親善協会
- **松井須磨子 没後 100 年祭**
  5 月 9 日／映画・トーク・音楽／浜離宮朝日ホール
  映画「女優」、トーク「松井須磨子とロシア」（相沢直樹・山形大学教授）、ピアノ演奏（川西宏明）
  5 月 11 日／演劇「松井須磨子」／かめりあリリオホール
  主演；栗原小巻
- **現代ロシア写実主義絵画展**
  6 月 1～2 日オープニング・セレモニー
  6 月 5 日より一般公開
  会場；吉祥寺・ストーンウエルアートギャラリー
- **サハリン州立人形劇場「ピカソの女たち」**
  6 月 5 日～9 日／劇場 東京・両国 シアターXｶｲ

◍ **グレゴリー・セドフ　ピッコロヴァイオリンコンサート**
6 月 8 日 大阪／6 月 9 日 京都／6 月 16 日 東京国立博物館／6 月 18 日 東京オリンピック青少年センター、ほか
主催；ピッコロ・ヴァイオリン研究会

◍ **Ｖ・ミキーツキイ（テノール）、Ａ・ミキーツキイ（ピアノ）デュオリサイタル**
6 月 25 日／東京・武蔵野市　6 月 27 日／北海道・札幌市
主催；NPO 法人ヘラルドの会

◍ **国立モスクワ音楽院室内合唱団 コンサート**
6 月 27 日／さいたま市・埼玉会館ホール
6 月 28 日／東京・日経ホール（大手町）
7 月 1 日 ／横浜・神奈川県民ホール
7 月 2 日／東京・武蔵野市民文化会館ホール
主催；ロシア文化フェスティバル日本組織委員会

◍ **ロシア国立交響楽団 コンサート**
ヴァレリー・ポリャンスキー指揮《 ｼﾝﾌｫﾆｯｸ･ｶﾍﾟﾗ 》
7 月 16 日／東京オペラシティ コンサートホール
7 月 20 日／横浜みなとみらいホール
主催；テンポプリモ、神奈川芸術協会（横浜公演のみ）

◍ **ボリス･エイフマン　バレエ公演**
「ロダン～魂を捧げた幻想」「アンナ・カレーニナ」
7 月 18 日～21 日／上野・東京文化会館
主催；朝日新聞社、ジャパンアーツ

◍ **ボリショイサーカス公演**
7 月～8 月／長岡・京都・横浜・幕張・流山・名古屋
主催；ボリショイサーカス･インターナショナル株式会社

◍ **サンクトペテルブルグ国立舞台サーカス公演**
7 月 21 日～9 月 2 日／飯能市・八王子市・浜松市・たつの市・伊丹市・可児市・調布市・松山市・明石市・横須賀市・川越市・八千代市・横浜市・柏市・流山市・浦安市・つくば市・武蔵村山市
主催；インプレサリオ東京、ほか

◍ **華麗なるクラシックバレエ・ハイライト**
ロシア四大バレエ劇場の競演～ガラコンサート
7～8 月来日予定／主催；光藍社

◍ **テルミン発明 100 年記念 日露合同コンサート**
9 月 16 日／東京・早稲田奉仕園スコットホール
主催；マンダリンエレクトロン

◍ **コンサート**
ロシア民族楽器アンサンブル「ドン・トリオ」
10 月 23 日／東京・ティアラこうとう小ホール
北川記念ロシア民族楽器オーケストラ
10 月 27 日／東京・ティアラこうとう大ホール
主催；北川記念ロシア民族楽器オーケストラ
　　東京労音

＊このほか、10 月～12 月にもバレエ、オペラ、コンサートなどがたくさん予定されています。

＊＊JICのロシア語留学・研修＊＊

30 年間の実績「だから、JIC のロシア語留学」

JIC ロシア語留学研修は、JIC 国際親善交流センターが日本で最初に旧ソ連･ロシアの諸大学と直接契約により開始した私費留学システムです。この 30 年間で JIC がロシアに送り出した留学生は長期･短期合わせて 3,500 名以上にのぼります。

安心の現地アフターケア

留学中はできる限り自分のことは自分でやっていただくのが語学力上達の道です。しかし、一人ではどうしても解決できない大学との交渉ごとや、緊急事態の際の連絡対応など、留学される皆様をバックアップするために、JIC では各受入機関と緊密な連絡体制を整えています。

ロシア語長期留学９月生・募集中

相談受付中！
早めにお申込みを!

期間：2019年9月1日より10ヶ月

締切: ２０１９年６月１５日

モスクワ国立大学 847,000 円(授業料 10 ヶ月)　予価
ｻﾝｸﾄ･ﾍﾟﾃﾙﾌﾞﾙｸﾞ国立大学 837,000 円(授業料 10 ヶ月)
ｳﾗｼﾞｵｽﾄｸ極東連邦大学 344,000 円(授業料 10 ヶ月)
ミンスク国立言語大学 335,000 円(授業料 10 ケ月)

※上記の金額以外に別途、寮費、手配料、渡航費用、ビザ代金および取得手数料などがかかります。

◆JIC ロシア留学デスク◆
ロシア留学・旅行のお問合せ・ご相談に応じます。
お気軽にお越しください。
東京事務所　平日 9:30-18:00　03-3355-7294
大阪デスク　平日 9:30-16:00　06-6944-2341
※留学相談は、必ず事前に予約してお越しください

◇◆編集後記◆◇

▼昨年から興味深い講演やセミナーが相次ぎ、掲載したい記事が多く集まったため、臨時号を発行しました。▼安倍官邸は、日ロ平和条約交渉の環境整備として経済･文化･観光交流など拡大の旗を振り続けています。経団連･中嶋氏の講演録からは、経済界の取組みがよく伝わって来ます▼また、為貞氏の「日本とロシアを結ぶ渡り鳥」では、日本とロシアが本当に自然と生態系を共有する隣国同士なのだということがよくわかります。▼次号(4 月 10 日号)は昨年 11 月の JIC セミナーでの黒田龍之助先生の講演録「もう一つのロシア語だけの青春」を中心に編集する予定です。乞うご期待！(F)